

# 日本性科学会 ニュース

第25巻第1号

平成18年(2006年)3月

発行人: 野末 源一 印刷所: 樹文社

## 第35回 性治療研修会

日時 5月28日(日) 9:30~16:45  
場所 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂

### プログラム

9:30~9:35	開会の挨拶	日本性科学会理事長	野末 源一
9:35~11:00	性反応・・・男性 女性	学校法人村上学園平和学院総長 千葉医療センター産婦人科医長	野末 源一 大川 玲子
11:00~12:00	性犯罪者治療	東京武蔵野病院医師	針間 克己
12:00~13:50	昼休み(13:15~13:45 日本性科学会総会)		
13:50~14:20	ロハス理論に基づく新しい性教育の展開	千葉大学名誉教授	武田 敏
14:20~15:20	治療における精神力動の基本	埼玉社会保険病院精神神経科部長	塚田 攻
15:20~15:40	休憩		
15:40~16:40	インテイクの基本	日赤医療センター臨床心理士	金子 和子
16:40~16:45	閉会の挨拶	日本性科学会副理事長	阿部 輝夫

## 第26回 日本性科学学会のお知らせ

第26回日本性科学学会/第8回性科学セミナーを下記のとおり予定しております。皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

会 期 2006年11月18日(土)午後 第8回性科学セミナー  
11月19日(日) 第26回日本性科学学会 学術集会

場 所 仙台市情報産業プラザ(アエルビル6F・多目的ホール・セミナールーム)

学 会 長 村口 喜代(村口きよ女性クリニック院長)

メインテーマ 「ジェンダーとセクシュアリティ」

特別講演 若桑みどり氏 「美術史を通して見るジェンダーとセクシュアリティ」

基調講演 ジェンダーの基本的概念 歴史的考察と現状認識

シンポジウム 日本社会におけるジェンダーとセクシュアリティの現状と課題

教育講演 性の健康国際学会 モントリオール宣言「ミレニアムにおける性の健康」

ランチョンセミナー 日本社会とエイズの危機

一般演題申込締切 2006年7月21日(金)

400字以内の演題要旨をe-mailにて下記宛にお送りください

お問い合わせ先 e-mail: 26th-jsss@muraguchikiyo-wclinic.or.jp  
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-2-3 仙台MTビル2F  
村口きよ女性クリニック  
Tel: 022-292-0166 Fax: 022-292-0167 担当: 長谷川泰子

Vol. 25	日本性科学会
No. 1	〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F 長谷クリニック内 TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

## セックスレスを乗り越えて妊娠に至った女性の症例

埼玉社会保険病院 花村 温子・塚田 攻

拒食型の摂食障害の治療中にセックスレスの問題を語りはじめ、夫婦同席面接などもまじえて治療が展開し、最終的には妊娠したケースを経験したので報告する。

クライアント：Aさん、初診時20代の女性、職業は医療系専門職

家族：（初診時）同年齢の夫と本人の2人で生活、夫は大学時代のサークルの同級生で、働きながら難関の国家資格を受験中（治療経過中に合格）。本人曰く優しい人とのこと。実家には両親、会社員の弟、妹、妹の子が5人で暮らす。

父は会社員、母は専業主婦。妹は未婚だが、10代で妊娠し出産するもあまり子どもの面倒を見ないで遊び歩いている。生育歴：本人は都内で出生、生育、乳幼児期の身体発達に特記すべきことなし。本人は成績優秀、まじめでおとなしく責任感の強いタイプ。

経過：大学4年の時、卒論や国家試験などのプレッシャーで食欲が落ち、体重減少したが受診はしなかった。就職し、卒業後も夫と結婚。結婚後パート勤務に。X-2年、易疲労感出現、精神科クリニック受診したが体重回復したため治療中断。X年、食欲不振、抑うつ感で再度同じクリニック受診。電解質異常なども見られたため、体重回復を目的に当院に入院。入院時の体重は31キロ。入院中は経管栄養摂取などで体重をあげていく方策をとる一方、主治医より心理療法の依頼があり、筆者（Th）が面接を担当。

面接経過：面接では穏やかで感情を表に出さず話す印象であった。食事については「食べなくてはいけないと思うが食べられない」とのことであった。〈太るとどうなってしまうのか〉と問うと「人に嫌われる。好かれる自信がない、ここでも先生に嫌われたらどうしようと思う」と涙ぐんだ。39キロになった時、本人の不安が高まり退院を希望、その後は外来で診察と心理療法を続けることになった。改めて生育歴を聞き直すと、今まで母の言うなりに良い子にしており親の意向に沿って何でも決めてきたこと、常に自分の選択に自信が持てないことなども語った。面接開始後半年くらい経った頃、無月経だったが月経再開したことを話題にしていたときに、「子どもはほしいが夫とセックスレスである」という話題になった。性行為に嫌悪感を感じ、拒否してしまうとのことだった。夫婦で来院してもらい、夫に話を聞くと、夫は摂食障害の特性も理解し、相手のことをわかろうとしているが、自分の欲求もありイライラしてしまうとのことだった。その後も時々夫婦で来院し同席面接を行う中で〈今後女性としてどう生きていくかの心配があることで摂食障害が起きている、だから子供を持つことやセックスに不安を持つのだろう。お互い思っている気持ちを出し合う努力を〉と2人にアドバイスした。主治医にも〈無理に挿入をせず、タッチングなどから〉〈男性にとって女性の乳房は母親の象徴であり、甘える、リラックスしてホッとするとところでもある〉とアドバイスされ、本人は時に夫を受け入れられることも出てきた。「太るといかにも女性的になっていき、男性から魅力的と思われるのがイヤ」「大人の女性、性的なことをする女性、を意識させるのがイヤ」と語り、成熟した女性になることへの拒否感から摂食障害、セックスレスになっていることがより明らかになった。本人自身も「私も子どもはほしいが心の準備が出来ていない」と述べるためそれに対しThが〈それとセックスとの関連がありませんか〉と問うと、「意識していなかったけど、関連しそう。今の自分が母親になるのは不安。もっと気楽に人と関わられるようになりたい。今の自分に子どもは育てられないからセックスを避けてしまう」と、女性としての自信のなさを感じていること、それに摂食障害もセックスレスも関連していることに気がついてきた。その頃製薬会社主催の女性の性行動に関するアンケートをうけ、性に対する抵抗感が減少し自然に夫を受け入れられるようになった。その後食欲も上昇し妊娠。妊娠後は明るく自信をつけた感じで過ごし、切迫流産で入院したと連絡が来た後は来院無く治療中断となったが「無事生まれました」と本人、夫より電話で報告を受けた。

考察：面接経過でも触れた通り、摂食障害もセックスレスも女性としての自信のなさから症状化したものと思われ、特にセックスレスは深く人と関わり合うことの回避でもあったのだろうと考えられた。面接場面でも「先生に嫌われたらどうしよう」と泣くことが多く、「自分はこれでよいのだ」と思える安心感が育っていない印象を受けた。性的なことが大丈夫になってきた矢先に妊娠し、治療は終了してしまったが「女性として、人としてどうありたいのか」という本質的なテーマを面接で掘り下げはじめたときに本人は辛くなることを予測し、「無事妊娠したのでもう良いです」と「健康への逃避」という形で治療から逃げてしまった印象が否めない。一応治療の第一ラウンド終了と考えても良いだろうが、出産後、夫の愛情を巡って子どもとライバル関係になるのではという予測もできる。

症例検討会当日の討論：症例検討会では、上記の考察で述べた内容の他に、出産後またセックスレスになるのでは、根本的なテーマは解決されていないのではないか、また来院する可能性もあるのではといった議論が交わされた。



## 第1回東アジア性科学会議 1st East Asia Sexology meeting

千葉医療センター 大川 玲子

### 東アジア性科学会議誕生の経緯

第1回東アジア性科学会議は、もともと中国の精神科医 Dr. Hu の提案からはじまった。中国が2008年のアジア・オセアニア性科学会を北京で開催することを決定したのは、2004年インドでのことである。北京ではその年オリンピックが予定されており、観光地としても整備された首都での性科学会は大いに期待できる。中国性科学会のリーダー Dr. Hu は、日本性科学連合に国際学会のノウハウを教わりに訪日したいし、その際性治療の症例検討会をしよう、と提案された。そこで今回、日本性科学学会に釜山大学医学部名誉教授（産婦人科）Dr. Won-whe Kim が招待されることに便乗して、東アジアの3か国での会議を目論んだのである。

残念ながら当の Dr. Hu はその日の来日ができなかったが、韓国からは東アジア性科学会議の開催の賛意を得た。韓国では、一昨年 Dr. Kim が中心となって韓国性科学会を設立し、WAS の一員にもなっている。ここ数回、アジア学会、世界学会で Dr. Kim にお会いするたび、同行のメンバーが増えている。すべて若手、中堅の産婦人科女性医師である。日本性科学学会の直前に、第2回韓国性科学会大会を開催したばかりとのことであった。

### 第1回東アジア性科学会議

第25回日本性科学学会の前日の11月5日（土）の午前、学会主催者麻生教授のご好意で、東京医科歯科大学の臨床講堂で行われた。学会事務局長の尾林先生以下、医歯大産婦人科のスタッフが数名来られて、会場の準備をして下さった。写真1は打ち合わせ風景である（Dr. WW Kim 他の韓国の参加者と尾林先生）。

参加者は、韓国からはこの3人。日本側は、野末理事長、阿部副理事長、以下、医歯大からの参加を含めて約20名というこぢんまりとした会議であった。なお直前に決定された試行的な会議であったため、多くの会員や学会の一般参加者に事前連絡できなかったことを、ここでお詫びいたします。

症例の提出は韓国から Kyung hee Kim（写真1中央の女性、個人のオフィスで性治療を行っている産婦人科医）の、性嫌悪障害の症例、日本から金子和子が性欲低下障害、大川玲子のワギニズムスの症例をそれぞれ報告した。

Kyng hee Kim の症例は、小児期に親類男性から強姦された女性である。クライアントは結婚式に参列したその相手を見て、忘れていた事件を思い出し、夫とのセックスは蘇った記憶と重なり、その後も通じて苦痛に満ちたものになった。治療者はカウンセリング、認知行動療法などを行ったがそれだけでは改善しなかった。クライアントは強姦で醜くなった（と思い込んでいる）外性器の形成手術を望んだのである。結局彼女は手術を受けたのだが、このような場合、手術をすすめるべきかどうか、盛んな討論が行われた。日本の参加者は、「性器の外観についても、性機能障害の心因についても誤った認識を強調してしまうので、手術には反対」「手術によって性感を損ねる可能性もある」と反対意見が多かった。韓国側は演者を含め、懐疑的ではあるが「結果的にクライアントのセルフ・エスティームが高まり、性機能障害が解決するならいいのではないか。」また、韓国では最近外陰整形手術が良く行われていると言う説明もあった。

金子の症例は28才から12年間、その間の結婚、離婚も通じて治療を行い治癒にいたった、性欲低下障害の男性である。性的に緊張し性反応を抑制してしまう自己を認識し、克服するまで、クライアントも治療者も辛抱強く健闘した症例であるが、討論はその心理的特性より、「こんなに長期によくがんばるね。あるテキストには半年で改善しなかったら、方法が間違っているのだから他の治療者に換える方がいいと書いてある。」といった話題になった。金子も20年以上前に性治療をはじめたころは、典型的な、行動療法で改善するクライアントを数多く診てきたが、しだいに困難症例が集まるようになったと言う。大川が報告したワギニズムスの症例は2年間の治療で改善したもので、この間、処女膜輪状切除術も行い、また男性の問題にも介入した。Won-whe Kim は、大川の世界学会などの発表を知っていて、どうしてこんなにワギニズムスが多いのか（大川の症例の70%強がワギニズムス）、また治療に時間がかかることも、日本に特異的なことではないか、と質問した。



写真1



写真2

共通理解できるのは英語であり（ハングル、日本語、英語のわかる参加者もいたが）、英語も流暢とは言えない参加者も少なくなかったが、予想以上に踏み込んだ討論ができたと思う。隣国とはいえ積極的交流をしてこなかった国同士で意見交換をすることは、極めて意義の深いことである。今後は、是非中国も参加してもらい、比較文化ばかりでなく性科学の知見を共有して、個々の症例ももう少し丁寧に検討したいものである。

写真2は会議後の集合写真である（中央は野末理事長、左右は阿部、Won-whe Kim）。その日の午後はJFSセミナーがあり、夕からの懇親会では Dr. Kim 夫人も交えて多くの参加者と交流した。

## 性同一性障害に関するガイドライン第3版について

埼玉社会保険病院 塚田 攻

性同一性障害に関するガイドラインが再改訂され、第3版になった。その概要について紹介したい。

平成14年7月に性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法律（いわゆる特例法）が成立し、1年後に施行された。このことによって、性同一性障害者の性別変更に道が開かれた。特例法においては、事実上、性別適合手術を性別変更の前提としている。すなわち、この法律を以て、性別適合手術は医学的にはもちろん、法律上も正当な治療であることが認められたと解釈される。これによって、これまで問題とされてきた母体保護法第28条を問題とすることなく性別適合手術を行うことができるようになったと考えられる。このことから、性別適合手術の適応判定に関する倫理委員会の個別承認は撤廃し、医療チームに法曹関係者や学識経験者などの第3者委員を加えた性別適合手術判定会議を置くこととなった。

一方、性同一性障害の臨床像は多様であることから、個別例に沿った治療の選択が要請される。多様な選択肢から自己決定することができるように、これまでの第2段階、第3段階の区別をなくし、精神科領域の治療と身体的治療に大別されるのみとなった。身体的治療については、アラカルト方式とし、ホルモン療法とFTMの乳房切除術は医療チームで、性別適合手術は性別適合手術判定会議で適応についての判定を行う形となっている。

すでに治療を開始しているケースに関しては、アラカルト方式になったことから、治療段階の判定や再構築の必要がなくなった。治療者は不適切な治療（特にホルモンに関して）に対して、治療の改善や中止の指示を行う。

性別適合手術判定会議において、第3者委員の参加がすぐには実現しにくいことも考えられ、移行措置が定められている。ホルモン療法とFTMの乳房切除術に関してはこれまで通り、医療チームで適応判定を行う。性別適合手術に関しては性別適合手術判定会議が組織されるまでの間、倫理委員会のメンバーなどが医療チームでの検討資料を点検する形で替えることができる。

今回の改訂によって、性同一性障害の治療がこれまで以上に迅速化されることを期待したい。

### 2006・2007年度 日本性科学会理事選挙

この度の理事選挙（全国1ブロック）において、下記のとおり立候補の届け出がありました。

（受付順） 大川 玲子 廣井 正彦 石河 修 武田 敏 石津 宏  
山崎 高明 村口 喜代 野末 源一 阿部 輝夫 亀谷 謙

それぞれの立候補者について、立候補資格要件（5名の推薦人、入会後3年以上）をチェックし、すべて適格でありました。また、立候補者数が定員の枠内でありましたので、無投票で全員を当選者と決定しました。

2006年3月2日

日本性科学会 選挙管理委員会

委員 本多 洋 ㊦ 長田 尚夫 ㊦ 針間 克己 ㊦ 本郷 元夫 ㊦

注. 理事は来る5月28日の総会において選任されます。

### セックス・カウンセラー セックス・セラピスト 資格認定委員会報告

認定委員会委員長 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成18年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示を、6月発行の日本性科学会ニュースで行います。尚、更新該当者氏名（登録順）は、以下のとおりです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は、ご準備をお願い致します。また、同時に、平成18年度新規資格認定に関する公示も、6月発行のニュースで行います。

#### 資格更新該当者氏名

セックス・カウンセラー 荒木乳根子 セックス・セラピスト 塚田 攻

#### 会費納入のお願い

4月より新しい年度（平成18年4月1日より平成19年3月31日）に入りますので、平成18年度会費15,000円の納入を、よろしくお願い致します。手数料が無料となります。学会の郵便振替用紙を同封致しますので、ご利用下さい。